

# CLUSTERPRO

## MC RootDiskMonitor 1.0 for Linux

### HW-RAID 監視機能

#### リリースメモ

© 2013(Apr) NEC Corporation

- ☐ ライセンス
- ☐ パッケージのインストール
- ☐ セットアップ
- ☐ マニュアル

## はしがき

本書は、CLUSTERPRO MC RootDiskMonitor 1.0 for Linux HW-RAID 監視機能（以後 HWRAIDMON と記載します）の動作に必要な手順について記載したものです。

### （1）商標および商標登録

- ✓ Red Hat は、米国およびその他の国における Red Hat, Inc. の登録商標または商標です。
- ✓ SUSE は、米国およびその他の国における Novell, Inc. の登録商標または商標です。
- ✓ Linux は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における、登録商標または商標です。
- ✓ Microsoft、Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- ✓ その他、本書に登場する会社名および商品名は各社の商標または登録商標です。
- ✓ なお、本書では®、TM マークを明記していません。

## 目次

|                                 |   |
|---------------------------------|---|
| 1. ライセンス .....                  | 1 |
| 1.1. コードワードの取得 .....            | 1 |
| 1.2. コードワードの登録 .....            | 1 |
| 2. パッケージのインストール .....           | 2 |
| 2.1. 動作環境 .....                 | 2 |
| 2.2. 使用パーティションおよび必要容量 .....     | 2 |
| 2.3. 提供媒体 .....                 | 2 |
| 2.4. 依存パッケージ .....              | 3 |
| 2.5. ソフトウェアパッケージのインストール .....   | 5 |
| 2.6. ソフトウェアパッケージのアンインストール ..... | 6 |
| 3. セットアップ .....                 | 7 |
| 4. マニュアル .....                  | 7 |

# 1. ライセンス

## 1.1. コードワードの取得

本製品を導入する前に、あらかじめロック解除のためのコードワードを取得する必要があります。

製品添付の「コードワードについて」の手順に従って、コードワードを取得してください。

## 1.2. コードワードの登録

「コードワードについて」の「ライセンスツールのインストール」及び製品添付の「コードワード登録手順」の手順に従って本製品をインストールするマシンに、取得したコードワードを登録してください。

### [手順の概要]

#### 1. ライセンスツールのインストール

ライセンスツールをインストールします。

既にインストール済みの場合は本手順は不要です。

ライセンスツールは製品媒体の/Linux/licensetool ディレクトリ配下にあります。

#### 2. コードワード登録ファイルの作成

コードワード登録ファイルを作成します。

既にファイルを作成済みの場合は本手順は不要です。

#### 3. コードワードの登録

コードワード登録ファイルに取得したコードワードを登録します。

記述ミスなどが無い様に正確に記述してください。

#### 4. コードワードの確認

コードワード登録ファイルに記載したコードワードが正しく登録されていることを確認します。

(例) `# /opt/HA/license/bin/halkchecklicense -v UL4441-102`

license OK

「license OK」と表示されることを確認してください。

## 2. パッケージのインストール

### 2.1. 動作環境

本製品 は以下の OS での動作を保証しています。

事前に OS のバージョンをお確かめのうえ、インストール作業を行ってください。

- Red Hat Enterprise Linux 5.x
- Red Hat Enterprise Linux 6.x
- SUSE Linux Enterprise Server 10 SP3
- SUSE Linux Enterprise Server 11

HW 構成の条件は以下のとおりです。

- IA32 および EM64T 搭載サーバ  
SCSI インタフェース接続の内蔵ディスク装置

### 2.2. 使用パーティションおよび必要容量

本製品で使用するパーティションと必要なディスク容量は以下のとおりです。

ご使用前にお確かめください。

| 使用パーティション | 必要容量        |
|-----------|-------------|
| /opt      | 約 1.0M バイト  |
| /var      | 約 50.0M バイト |

### 2.3. 提供媒体

本製品は以下の媒体に添付されます。

- CD-R (MDL144110101-2)

## 2.4. 依存パッケージ

- sg3\_utils

本製品は内部で以下のパッケージを利用します。

**sg3\_utils** Utils for Linux's SCSI generic driver devices + raw devices

本パッケージがインストールされていない場合、事前にインストールしてください。

以下のコマンドでインストールの有無を確認できます。

```
# rpm -qa sg3_utils
sg3_utils-1.25-1.el5
```

※ インストールされていない場合、何も出力されません

本パッケージは標準で OS インストール媒体中に含まれます。

- glibc (32bit 互換ライブラリ)

Red Hat Enterprise Linux 6.x (64bit) のシステムに本製品をインストールする場合、事前に互換ライブラリ(glibc-x-y.el6.i686.rpm)がインストールされている必要があります。

互換ライブラリがインストールされていない場合、事前にインストールしてください。

以下のコマンドでインストールの有無を確認できます。

```
# rpm -qa glibc
:
glibc-x-y.el6.i686
```

※ インストールされていない場合、“glibc-x-y.el6.i686” の行が出力されません。

注意:x, y には互換ライブラリのバージョン番号が入ります。

本パッケージは標準で OS インストール媒体中に含まれます。

- Universal RAID Utility

本製品は内部で以下のパッケージを利用します。

### **UniversalRaidUtility**

UniversalRaidUtility がインストールされていない場合、事前にインストールしてください。

以下のコマンドでインストールの有無を確認できます。

```
# rpm -qa UniversalRaidUtility  
UniversalRaidUtility-x.y-z
```

※ インストールされていない場合、何も出力されません

## 2.5. ソフトウェアパッケージのインストール

1. 本製品が含まれる CD-R 媒体を CD-ROM(DVD)装置に挿入してください。
2. mount(8)コマンドにより、CD-R 媒体を mount します。  
(/dev/cdrom は CD-ROM(DVD)装置のデバイスファイル名)

```
# mount /dev/cdrom /mnt/cdrom
```

3. rpm(8)コマンドにより本製品のパッケージをインストールします。

```
# rpm -ivh /mnt/cdrom/option/hwraidmon/rpm/clusterpro-mc-rdmhwraid-w.x.y-z.i386.rpm
```

**注意: Red Hat Enterprise Linux 6.x (64bit) のシステムに本製品をインストールする場合、事前に互換ライブラリ(glibc-x-y.el6.i686.rpm)がインストールされている必要があります。**

4. rpm(8)コマンドにより、本製品が正しくインストールされたことを確認します。

```
# rpm -qa | grep clusterpro-mc-rdmhwraid  
clusterpro-mc-rdmhwraid-w.x.y-z
```

5. マウントした媒体を umount(8)コマンドによりアンマウントします。

```
# umount /mnt/cdrom
```

6. 媒体を CD-ROM(DVD)装置から取り出します。

以上で本製品のインストールは終了です。

## 2.6. ソフトウェアパッケージのアンインストール

1. デーモンプロセスを終了させます。

```
# /etc/init.d/rdmhwraidmon stop
```

2. rpm(8)コマンドを使用してアンインストールを行います。

```
# rpm -e clusterpro-mc-rdmhwraid-w.x.y-z
```

(注)アンインストール時にクラスタを停止する必要はありません。

アンインストール時に /opt/HA ディレクトリおよび /var/opt/HA ディレクトリは削除されません。

不要な場合、手動で削除してください。

### 3. セットアップ

本製品を使用するためには、セットアップ作業を行う必要があります。

これらの手順については、媒体添付の『CLUSTERPRO MC RootDiskMonitor 1.0 for Linux HW-RAID 監視機能 ユーザーズガイド』をご覧ください。

### 4. マニュアル

本製品のマニュアルは PDF 形式で CD-R 媒体に含まれています。

| マニュアル名                                                                  | ファイル名                                                            |
|-------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|
| CLUSTERPRO<br>MC RootDiskMonitor 1.0 for Linux<br>HW-RAID 監視機能 ユーザーズガイド | /Linux/option/hwraidmon/manual/Linux_<br>RDM_hwraidmon_users.pdf |

CD-R 媒体は Microsoft Windows からアクセスできます。PDF ファイルを参照できるソフトウェアを使ってマニュアルをご覧ください。

CLUSTERPRO  
MC RootDiskMonitor 1.0 for Linux  
HW-RAID 監視機能  
リリースメモ

2013 年 4 月 第 2 版  
日本電気株式会社  
東京都港区芝五丁目7番地1号  
TEL (03) 3454-1111 (代表)



© NEC Corporation 2013

日本電気株式会社の許可なく複製、改変などを行うことはできません。  
本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。

保護用紙